

高木基金 成果発表会配付資料

グループ名 ・代表者名	穴あきダム特別調査チーム 遠藤 保男	助成金額	70万円
助成のテーマ	多目的ダムから治水専用（穴あき）ダムへの用途・形状変更等に関する調査研究		

調査研究等のテーマに関する背景説明

問題の概要	治水・利水両面での目的を喪失したダム計画の存続を狙ったとしか思えない「穴あきダム」と言われる治水専用ダム計画が浮上している。「穴あきダム」は堤体の河床部に放流口を設けてあるので常時は河川が堤体によって分断されていないので「自然にやさしい」と起業者は宣伝している。 そのようなダムの必要性、「自然にやさしい」とする実態、これらを批判的に検証することで、いたずらな自然破壊と多額な資金の無駄遣いを未然に防ぐ。	
問題の原因 など	(原因の主体：例えば公共事業の主体、あるいは責任を負うべき行政機関等はどこか) 「穴あきダム」の起業者は、国土交通省地方整備局の場合と、県の場合がある。	
問題の経過	1、多目的ダムとして計画されたが、利水目的がなくなったことにより、治水専用ダム計画に移行。 2、常時貯水の必要がないので、「穴あきダム」形式を採用 3、「堤体による上下流の分断がない」として「自然にやさしいダム」と宣伝 4、現在までに、十四基の「穴あきダム」が計画もしくは構想として浮上してきた	位置関係 ・計画・調査、足踏み中の事業予定地 最上小国川ダム(山形県:最上川支流小国川) 浅川ダム(長野県:信濃川支流浅川) 辰巳ダム(石川県:犀川) 新足羽川ダム(福井県:九頭竜川支流足羽川) 武庫川ダム(兵庫県:武庫川) 城原川ダム(佐賀県:筑後川支流城原川) など
争点	(問題に関わる科学論争などの争点は何か) 1. 当該ダムの必要性の有無 2. 当該ダムによる環境影響 ・ 環境影響評価法は足羽川ダム以外は対象規模以下であり、適用されていない 3. 当該ダムに期待されている効果の限界と危険性 (問題の解決を阻んでいるものはなにか) 1. 現地の公共事業依存(幻想)体質 2. 起業者が「ダムに依存した治水」は既に破綻していることを認めない 3. 「行政の継時的つながり」重視による見直し拒否、形骸化した第三者機関 (問題をめぐる世論はどうなっているか) 総論としては「公共事業見直し」が浸透しつつあるが、現地では未だに公共事業依存傾向が強く、利害関係者の合意を得ないまま進められる最上小国川ダムも含め、見直しは進んでいない。	
助成を受けた調査研究等のねらい	必要性については当該河川の然るべき治水対策の検討、環境影響については当該ダム予定地の自然環境の調査状況、効果の限界と危険性については当該ダムに関する文献調査、現地・現状調査、ヒアリングを通じて調べる。 以上の批判的な調査・検証を行うことにより、「穴あきダム」化による無用なダム建設を許さないことが、本調査の狙いである。	

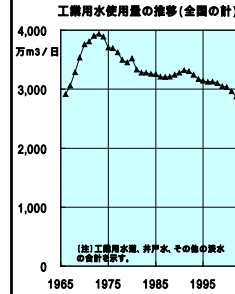
## 調査研究の背景と目的

- **背景** (ダム事業の中止傾向 生き残り)
  - ◆ 中止要因: 「ダム反対運動」「財政危機」「水余り」
  - ◆ 事業存続のため、利水・治水の多目的から治水専用ダムへ変更する傾向。
  - ◆ 治水専用ダムは、ダム堤体下部に穴を開け、通常時は水をためず、洪水時のみに治水効果を有するから「環境にやさしい」と宣伝。
- **目的** 「穴あきダム」化による無用なダム建設の中止  
 「穴あきダム」には 環境影響、治水効果、経済性のいずれの面からも有用性に対しては疑問があるので、これらを批判的に検証する。

## ダム計画の延命策 → 穴あきダム

「水余り」

穴あきダム調査・計画・検討中



- 三笠ぼんべつダム(北海道、直轄)
- 最上小国川(おくにがわ)ダム(山形県、県営)
- 津付(つづき)ダム(岩手県、県営)
- 浅川ダム(長野県、県営)
- 足羽川(あすわがわ)ダム(福井県、直轄)
- 辰巳ダム(石川県、県営)
- 浜田ダム(鳥取県、県営)
- 城原川(じょうばるがわ)ダム(佐賀県、直轄)
- 立野(たての)ダム(熊本県、直轄)
- 西之谷(にしのだに)ダム(鹿児島県、県営)
- 丹生(にう)ダム(滋賀県、水資源機構)
- 大戸川(だいどがわ)ダム(滋賀県、直轄)
- 武庫川ダム(兵庫県、県営)

## 調査研究の調査項目と活用

- **調査方法**  
 現地調査、関係者・研究者への聴き取り、文献調査
- **調査項目**
  - 当該ダム計画に至る経過
  - 当該ダムの目的 - 必要性の検証
  - 当該ダムによる環境影響
  - 当該ダムに期待されている効果の限界と危険性
- **調査結果の活用**  
 調査結果は報告書にまとめ、関係団体、河川管理者、報道機関等に発表および配布する。

## これまでの活動経過(現地調査)

- 2008年3月15日～16日:  
 -九頭竜川水系**足羽川(あすわがわ)ダム**(福井県/国交省)
  - 予定地視察
  - 美山町ダム反対期成同盟会ヒアリング
- 犀川水系**辰巳(たつみ)ダム**(石川県/県)
  - 犀川河口から現地までの現地踏査
  - 市民団体、辰巳ダム工事事務所等ヒアリング

「水源連だより45号」に掲載
- 2008年7月23日:  
 -京都にて、**浅川ダム**模型実験(京都)視察
- 2009年5月13日:  
 -**最上小国川ダム**予定地視察
  - 市民団体の案内による小国川踏査・ヒアリング

「水源連だより49号」に掲載

## 事例1 最上小国川ダム(山形県営)



## 最上小国川ダム(穴あきダム化の背景)

- 1991年 予備調査(県単独事業)
- 1995年 実施計画調査(補助事業)
- 1995年 小国川漁業協同組合理事会は最上町に反対の意見書提出
- 2000年7月 小国川漁業協同組合総代会 ダム建設反対決議
- 2001年～02年 最上小国川を考える懇談会(5回開催)
- 2002年1～2月 最上小国川に関するアンケート調査(県河川砂防課)
- 2002年4月 最上小国川を考える懇談会が知事に提言書「洪水時以外は貯水しないダムとする委員が大半であったが、ダム以外による治水計画も検討すべきとの意見があった」と函論併記
- 2003年9月 最上川水系最上圏域河川整備計画(知事管理区間)策定
- 2004年11月 公共事業再評価監視委員会「調査継続は妥当」「一部の関係者の合意が得られていない」、函論併記意見書提出
- 2006年1～5月 最上川水系流域委員会 最上地区小委員会(第1回～第6回)  
 「どれくらいかさ上げすればいいか」(漁協組合長)  
 「左岸を1.5メートル高くすれば、右岸には問題ない」(有識者)
- 2006年11月8日 市民団体「最上小国川の真の治水を考える会」(04年設立)意見書
- 2006年11月16日 河川整備計画に関する知事と小国川漁協の意見交換会
- 2006年11月17日 知事と最上小国川治水建設促進協議会との意見交換
- 2006年11月24日 「最上小国川治水対策」住民説明会
- 2006年11月29日 知事記者会見「穴あきダム(+河道改修)工法による

## 最上小国川ダム(穴あきダム化の背景)

### 「漁協反対決議」

(2007年 小国川漁業協同組合第51回総代会)  
 県知事に「1390名の総意として」提出

- 貯水による水質汚濁と流量減少による魚類・水生生物の枯渇
- 清流と生態系の破壊、生活環境破壊
- 用水は足り、水力発電はコストが高く発電量も少ない、洪水対策とは矛盾
- 水害対策としてのダムの危険性(貯水能力を超えた場合の放水による危険、土砂堆積による洪水調整機能の低下、コンクリートの劣化とダムの寿命)
- 幻想である観光資源としてのダム(神室ダム、鳴子ダム、寒河江ダム)、鮎釣りの魅力の半減、釣り客の減少とその影響

### 県河川砂防課「最上小国川に関するアンケート調査」

「ダムを造り洪水を防ぐべきだ」441人(35%)  
 VS

「バイパス河川を造り赤倉地区の洪水を防ぐべき」363人(28%)

「温泉街河川状況に必要最小限の対策を行い、それ以上の洪水が来た時の被害はやむを得ないと思う」149人(12%)

「温泉街家屋移転して河川を拡幅すべきだ」84人(7%) ダム以外の治水 **計46%**

## 最上小国川ダム(山形県の方針と疑問)

山形県の方針(2006年11月 知事会見資料)

(最優先課題:県民の生命財産を守る)

流域での降水量の増加・局地化傾向

検討・協議機関の長期化

(1995年以来、赤倉温泉地区で2度浸水被害)

経済合理性

### 疑問点

他のダム予定地では「少雨化」

緊急を要する対策を何故優先しない?

比較の選択肢に最も早く安いはずの

「温泉宿数軒の嵩上げ」なし。

	河道改修	放水路 (+河道改修)	穴あきダム (+河道改修)	温泉旅館の 嵩上げ案
工期	38年	26年	18年	
総事業費	161億円	160億円	130億円	
現在価値C	83億円	103億円	104億円	
総便益B	73億円	91億円	143億円	
B/C	0.86	0.88	1.37	?

・「事業費」は維持管理費を含まない。「総便益」は50年間の各種被害(一般資産、農作物、公共土木施設)を算出し、治水対策による被害解消額の総計

コスト、便益ともに裁量

他のダムでも常にダムが一番安い

## 最上小国川ダム(漁協の反論)

### 「穴あきダムでも水質は悪化する」

- 川は流れることによって洗われる。
  - 通常貯めなくても、「穴」で洪水の勢いを制限する。
  - 濁った水がゆっくり吐き出され、沈殿して珪藻類に泥が付着
  - 川虫の住む環境も悪化する
- アユは川石につく藻を食べて育つ。
  - 川が濁っていれば藻に付着する泥も一緒に食べる
  - 質も香りも味も、胃袋、身にも泥臭さが残る

### 県の主張

#### アユにとっての良好な環境

- 川底に細かい砂利がある
- 小洪水が頻繁におこる
- 洪水後の濁りがすぐにおさまる
- 水温水質は自然の状態

#### 「穴あきダム」の特徴

- 穴から細かい砂利が供給される
- 小洪水の発生回数は変わらない
- 洪水後の濁りはすぐに自然状態に戻る
- 水温水質には影響を与えない

## 本調査で明らかになったこと(小括)

### 【河川行政のいう穴あきダムのメリット】

- 環境への影響がない/低い
- 治水効果がある
- 経済性(費用対効果)が高い

### 【本調査による現時点での推論】

- 環境への影響がある/懸念される
- 治水効果は限定的/役に立たない
- 経済性(費用対効果)は低い/疑わしい

## なぜ、河川行政は穴あきダムを推進するのか?

本調査の推論 : 穴あきダムは工学的に見て合理性が低い

### 社会科学的原因/背景によるのではないのか?

#### ・治水至上主義説

行政にとって、治水は安全保障(国防)と同じであり、民主主義や費用対効果などは関係ないと信じている。よって、治水に効果があると信じている穴あきダム(治水専用ダム)を推進する。**(軍事力と安全保障の因果関係も絶対でないことに注意されたい)**

#### ・目くらまし説

穴あきダムに工学的な問題があるのは理解しているが、ダムに対する否定的な意見を懐柔しやすいため、改善の策として、あるいは将来の多目的ダム等への計画変更を期待して、とりあえず穴あきダムを推進する。

#### ・組織防衛説

穴あきダムの効果は関係なく、組織や政策ネットワークの利益(予算、人員、権限、天下り先、学者の審議会委員ポスト、ゼネコンの利益など)を守るため、ダムのなかでも比較的推進しやすい(と思っている)穴あきダムを推進する。

## 今後の予定

### 現地調査

- 鳥根県益田川ダム(鳥根県事業):日本初の穴あきダム

### 研究者への聞き取り調査

- 角 哲也(京都大学大学院工学研究科准教授)
  - ・ 穴あきダム提唱者
- 今本博健(京都大学名誉教授)
  - ・ 穴あきダム検証者
- そのほかの研究者

### 河川管理者、文献等調査、それらの整理・分析

### 調査・研究結果の活用

「穴あきダム」化による無用なダム建設の中止

**グループ(個人)のプロフィール**

連絡先など	住所・所在地	〒247-0072 鎌倉市岡本 2-2-1-510				
	連絡担当者	政野 淳子				
	電話・FAX・携帯	電話・FAX : 0467-48-5556 携帯 : 080-3127-0915				
	E-mail・URL	atsukom@mrj.biglobe.ne.jp				
グループの特色	グループメンバーは、水源開発やダム問題を中心とした住民運動、環境保全活動を、立法、行政、司法、広報、メディアなど、それぞれの専門性を活かしながら活動してきた。					
これまでの活動経過・研究実績	<p>2008年3月15日～16日：</p> <p>国土交通省が福井県で進める九頭竜川水系の足羽川（あすわがわ）ダム事業、辰巳ダム予定地視察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報収集美山町ダム反対期成同盟会事務局長・清水清一氏からのヒアリング</li> <li>・ 石川県営辰巳（たつみ）ダム事業</li> <li>・ 市民団体の案内による犀川河口から現地までの現地踏査、ヒアリング</li> <li>・ 辰巳ダム工事事務所等ヒアリング</li> </ul> <p>上記3月に行った足羽川ダム予定地・辰巳ダム予定地調査報告を「水源連だより 45号」に掲載</p> <p>2008年7月23日：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都にて、浅川ダム模型実験（京都）視察</li> </ul> <p>2009年5月13日：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最上小国川ダム予定地視察</li> </ul>					
グループの組織基盤・財政状況	決算/事業報告	あり	なし	会員組織	あり	なし
	会報など	あり	なし	発行サイクル		
	会員・支援者数	<概算で構いません>				
	年間の予算規模	<概算で構いません>				
	主な収入内訳	項目	**万円	主な支出内訳	項目	**万円
主要メンバー役員など	遠藤保男（代表）、佐藤 守、田中信一郎、中島 康、西島 和、政野淳子（連絡責任者）、渡邊 誠					
協力を受けている研究者(*1)						
協力して活動している団体など(*2)	水源開発問題全国連絡会					
その他 (自己PR・協力要請等も可)						

\*1 グループの役員など、恒常的に助言・協力を受けられる関係にある場合は◎印をつけ、役職や関係などを付記して下さい。  
(過去に助言・協力を受けたことがある、あるいは、今後依頼できる、という関係の研究者は、無印で記載して下さい。)

\*2 特に密接な関係にある団体には◎印を付けて下さい。(必要なときに協力を頼める、頼んだことがあるという団体は無印で記載して下さい。)

**参考文献・ウェブサイトなど**

- ・ 山形県最上小国川ダム [http://www.pref.yamagata.jp/ou/doboku/180006/dam/copy\\_of\\_mogamioguni.html](http://www.pref.yamagata.jp/ou/doboku/180006/dam/copy_of_mogamioguni.html)
- ・ 長野県浅川改良事務所 <http://www.pref.nagano.jp/xdoboku/asakawa/index.htm>